

【意見交換会テーマ】「芯の通った学校組織」を基盤とした大分県版「チーム学校」の実現
(1) 低学力層を中心とする中学校の学力向上に向けた組織的な取組について
(2) 学校・家庭・地域が一体となった健康課題への対応の今後の展開について
【出席者】 学校訪問①と同じメンバー
中津市立小・中学校長（小学校3校、中学校3校）

意見交換会では、市全体の取組状況の説明の後、市の教育委員・各校長からの現状・課題についての説明も交えながら活発な意見交換を行いました。

(1)低学力層を中心とする中学校の学力向上に向けた組織的な取組について

- ・安心して学べる人間関係づくりが重要。その上で、学びの目的に対して教師側の思いを学習集会等の場でしっかり伝えることが大切。
- ・低学力層には2通り。学びに向かえない子と理解そのものが難しい子。学びに向かえない子は生徒主体の授業構成を工夫するようにする。理解が難しい子は学び直しの場の設定を行う。
- ・質の高い授業を通じて荒れた子どもが落ち着いていけば、その姿を周りの教員が見て、授業の大切さを認め授業改善が広がっていく人材育成にもつながる。その意味でも重要ポストに学級経営力と指導力の高い教員をあてることが肝要。
- ・小中連携では、学校全体で育成を目指す資質・能力をそろえている。これまでの情報交換中心の連携から、授業参観や指導案をもとにした連携を行っている。
- ・新大分スタンダードに取り組んできた成果として、小学校では学びの質が向上している。中学校も新大分スタンダードに基づいた授業改善に取り組んでいるものの、授業の流し方や板書の構造化、ノート指導に課題がある。その中で「全員活躍型授業」に市をあげて取り組んでいることが生徒主体に話す・活動する授業につながる。
- ・「キーワードの活用」と「振り返り」については、形はできているので今後は充実が必要。



（工藤県教育長）「我々はパートナー」共に手を携えて大分県の教育を牽引してほしい

(2)学校・家庭・地域が一体となった健康課題への対応の今後の展開について

- ・運動習慣や朝食摂取、むし歯予防等について、その必要性を説く指導が必要。子どもが体験の中で大切さを自覚し、その子どもから親へとつながるようにするとよい。
- ・食習慣・生活習慣の充実が授業改善の根幹をなすものである。様々な家庭がある中、行政や学校の連携が重要。まず、PTA連合会との連携を推進していく。
- ・肥満傾向にある子どもに対してはその体格の変化と要因を個別に分析して実態を把握することが大切。その上で配慮の必要な個別指導の仕方を丁寧に考える必要がある。家庭への啓蒙が課題。
- ・タグラグビーは、運動に対して苦手意識を持っている子どもも積極的に参加し、運動量の確保ができる。今後も継続していきたい。
- ・健康課題の解決と学力向上は同じくらいの課題であるという意識でとらえきれているかを再確認すること。肥満やむし歯を放置することは教育の中であってはならない。思いを持って指導していくことで変わってくる。配慮の必要な児童生徒への個別指導については、学校において児童生徒へのアプローチの仕方や指導を工夫し、その熱意を保護者へ伝えるとともに家庭と連携することが大切。



（粟田市教育長）子どもたちを主体者としてとらえることが大切である

【意見交換を終えて(工藤県教育長から)】

大変貴重な意見ありがとうございました。学力・体力・健康について現場でしっかりと取り組んでいただいていることに感謝したい。11月1日に玖珠で開催された「大分教育の日」の際に久留島武彦記念館の館長さんより久留島武彦が「継続は力」をいつも訴えていたという話を伺った。しっかり取組を続けていくことで、この中津市に大分県の教育を牽引してもらいたい。協議の中ではPTAとの連携を組むことが大切だという話があった。昨日高校のPTA連合会と意見交換会があり、その中で「我々はパートナーである」という言葉があった。何かをもらうとか何かをお願いするとかではなく、お互いに手を携えながらやっていくことがPTAと教育委員会のありかたであろうという考えに納得した。対立するのではなく、いろいろな意見は言うけれど批判しているわけではなく、ぜひ子どもたちのために何ができるかということと一緒に考えていきたいということであった。これは大分県教育委員会と市教育委員会の間でも同じだと思う。しっかりタッグを組んで押し切ってトライしていきたいと考える。本日は本当にありがとうございました。